

# 平成26年度 東蒲原郡国語部 活動報告

部長 渡部 裕子

## 1 研究主題 「言語の力を育てる国語科の指導」

～説明的文章での指導における言語活動の工夫を通して～

## 2 研究の概要

- (1) 第1回 活動計画立案
- (2) 第2回 授業研究指導案構想説明会
- (3) 第3回 指導案検討会及び研究授業単元の指導案持ち寄り
- (4) 第4回 講話「説明文の授業づくり」  
講師：筑波大学附属小学校 二瓶 弘行 様
- (5) 第5回 授業研究及び教育課程伝達講習会  
授業者：阿賀町立上条小学校 田中 昭洋 教諭  
単元名：説明のしかたを考えよう  
教材名「天気を予想する」（光村図書5年）

## 3 研究の実際

### (1) 第4回 講話より

筑波大学附属小学校教諭二瓶弘行先生を講師にお招きし、講話をお聞きした。「説明文の授業づくり」を演目に、具体的な教材を基に実践を紹介していただいた。説明文の指導を通して、児童に学ばせたい言葉の力「伝えたいことを正確に読み取る力」「伝えたいことの伝え方を検討する力」「伝えたいことに対して自分の意見・感想をもつ力」を付けさせることが大切であり、そのための指導方法をご指導いただいた。

### (2) 第5回 授業研究より

〈本時のねらい〉

- ・ 結論の段落を読み、筆者が最も伝えたい一文（主張）を見付け、その根拠を考えることができる。
  - ・ 筆者が用いた主張を分かりやすく伝えるための工夫に気付くことができる。
- 授業者が結論の段落を提示し、筆者の主張一文を見付けるための手だてとして、根拠を明確にさせるためのヒントカードを用いて児童に考えさせた。ヒントカードとしては「キーワード」「段落のつながり」「題名からのつながり」を用意し、児童は三つのヒントを頼りに、より多くの根拠が含まれているかどうかを検討しながら筆者の主張を読み取ることができた。
- もう一つのねらいである「筆者の主張を分かりやすく伝えるための工夫への気付き」については、十分な時間を確保することができなかった。単元を貫く課題である「阿賀町の稲作についての意見文を書く」という活動と関連させて、本時で学んだことを振り返る時間を確保するなどの手だてがさらに必要である。



## 4 成果と課題

- 指導案説明会、講話、授業研究は、説明文において言語の力を育てるための手だてを探る有意義な研修となった。説明文の特性を生かし、筆者の伝えたいことをいかに読み取り、その構成や表現の工夫を検討させていくことが言語の力を育てていくことにつながるということを共通理解することができた。
- △ 説明的文章での指導において、付けさせたい力を明確にし、付けさせたい力にふさわしい言語活動を意図的に取り入れていくことが必要である。